

【小学校教室での絵本の読み聞かせ留意点】

* 準備する

- * よく練習する（誰かに聞いてもらえたらベスト）
- * メリハリは必要ときもあるけれど、芝居調は避けた方が無難
- * 新しい本はすべてのページをよく開いて癖をつけておくと読みやすい。

* 本を読む

- * まずは挨拶（余分なおしゃべりや子どもとの掛け合いは避けるにかぎる）
- * みんなが見えているか読み出す前にチェック
- * 椅子にどっぷりと座ると声を通りにくくなる
- * 片方の手に本をのせ、別の手でしっかり支えると本が安定（平行に、揺れない様）
- * 立って読む場合は、脇をしめるとよい
- * 絵が自分の手で隠れないように
- * 表紙からゆっくりすべてのページをめくる（舞台の緞帳があがるように！）
- * 読み始める前に、少し高めに声を決めておくとあわてないですむ
- * はっきり、ゆっくり、そのままを・・・が原則 *心をこめて、かつ、込めすぎず！
- * タイトル、作者名をゆっくりとよむ
- * 文が短い絵本は読んでから、あわててページをめくらない
- * 教室の蛍光灯の光が本に反射して絵がまったく見えないことも
- * 校内放送、チャイムと、大声出して張り合わない
- * 記録をとる。（フォーマットを作っておくと、記入にも保存にも便利）
- * 子どもの様子など、むやみに口外しない・・・モラルの徹底を！

【読み聞かせコーディネーターについて】

読み聞かせ活動を、子どもたちにとって、また関わっているすべての方によりものにするために、少し広い視野で見る人やグループの存在が必要です。それは、選ばれた人という場合もあれば、少し経験値が高い方と言う場合もあります。それもまた、自発的な活動になるでしょう。学校との連絡係、まとめ役、コーディネーターなど呼称はさまざまです。あなたが、そんな役を担っているとしたら、以下のことを考えてみてください。

- ① 学校とのコミュニケーション（先生方の異動時は特に早めの対応）
 - ※教育基本法の改正、新学習指導要領等に伴う学校の変化と先生の異動
 - ※新年度から授業時間数が増え、英語が導入されるなど大きな変化があるので注意！
 - 校長先生、副校長先生、担任の先生とのコミュニケーションを！
- ② 学校司書制度は大切にしたい制度
 - ※学校司書は子どもたちの豊かな学びと充実した授業の実現のために配置されています。
 - ※家庭環境に関わらず、どの子も専門性の高いすぐれた読書指導が受けられます。
 - ※子どもたちのためには、学校や先生方が専門員さんを十分に活用して下さることが大切です。
 - ※二校兼務の状態では保護者の活動まで面倒をみるのむずかしく、対応してもらえることがあってもいつでも、どこでもとは限りません。
 - ※以下のことが起こらないように気をつけたいものです
 - ・学校司書同士の連携で動いている教科の関連資料を学級文庫に入れてしまう
 - ・学校側が保護者の活動に気を使うあまり、学校司書がいる週なのに、図書時間を保護者に充てる
 - ・学校司書に直接選書のお願いをする（担任の先生経由の場合可能なことがあります）等など
- ③ PTA 組織とのコミュニケーション
- ④ 新学習指導要領、子ども読書活動推進計画、教育に関する法改正など、「読み聞かせ」や学校教育そのものを取り巻く環境について、アンテナをはる
- ⑤ 定期的な注意事項の確認、初心者の講習、情報交換など必要に応じて行なう（いつも児童みんなのために）
- ⑥ 基本的な注意事項など（著作権侵害など含む）の周知
- ⑦ 後人の育成
- ⑧ サークル形式のところでは、参加していない保護者との情報の共有を図る
- ⑩ 各クラスで取り組んでいるところでは、テンションの維持が課題

※ 一度形ができると、学校は活動を信頼し、チェックはされないことが多く、その分、こちらのセルフチェックが必要となる。定期的な見直しシステムなどがあるとよい